

平成 30 年 度 高 知 県 立 農 業 大 学 校 評 価 表 【 A 100%以上 B 100%未満 80%以上
C 80%未満 60%以上 D 60%未満 】

評価項目	課題	目標	具体的方策	実績 (内部評価)		外部評価		今後の課題・改善策
					評価		評価	
1 魅力ある学校づくり (1) (学生の確保)	○平成28年度、29年度入校生は定員の半数以下。 ○応募は農業高校及びコース校が全体の約半数と割合が高い。 ○農業高校との連携した活動が少ない。	○定員50名 目標数値 定員充足率 80%	○推薦入試の2ヶ月早期化(8/29) ○オープンキャンパスの開催(3回) ○ホームページ、広報を活用した学校PR ・パンフレット配布 5600部 ・農業振興センターを通じて、JA、生産部会、市町村で学生募集 ・ホームページを月1回以上更新 ・県内46校を訪問し、学生募集の資料を配付 ・高校説明ガイダンス(7回) ・ラジオ、テレビ報道(5回) ○WiFiの活用 ・農大 FaceBook の開設、情報発信(6~10月) ○農業高校との連携強化 農業高校との意見交換(8/27) 高知農、幡多農グローバルGAP公開審査参加、農大祭参加、アグリウォッチング(12/15、29名、農業教育フェア参加)	各取組を実施することにより受験者34名 <u>合格者29名</u> <u>昨年と比べ7名減少</u> 応募者数 入校者 推薦 24名 22名 前期 5名 3名 後期 5名 3名 計 28名 (前年33名) 定員充足率 56% 内 畜産 1名 内 女性 5名 内 農業高校 8名 内 農業コース 11名 内 農家出身 11名 内 県外 1名	C	・オープンキャンパス参加数、ホームページアクセス数も増加しているのに受験者数が少なかったのは残念。 ・農業への就農希望が少ない中健闘している方だと思う。SNSなどの情報発信など地道な活動を続けることが大事。特に学生の生の声を届けると親近感を持ってくれる。 ・WiFiを活用した FaceBook の活用に期待。 ・高校～大学～高知大学の接続を今後検討していく必要がある。 ・引き続き取り組みの継続に期待すると共に独自の魅力を発信できる方策の検討も必要。 ・母校に学生が出向くことが効果大。ホームページは学生、社会人など誰が見ても見やすい魅力あるものにする必要がある。 ・インスタ、ツイッター、FBの活用	B	・推薦入試を9月上旬に変更 ・非農業系・県外・既卒者のアプローチ ・学生によるSNS、ホームページの更新ルールの検討 ・学生会館へのWiFiの設置

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価	評価	今後の取り組み
					評価			
(2) カリキュラムの充実)	学生のキャリアパスが多様化	時代のニーズにマッチした教育内容の充実 G・GAP認証取得	○G・GAP認証に向けた実践教育 「GAP」講義の実施 安全・安心な農業・農産物生産に係る生産工程管理の実施、チェックリストの作成、内部評価、審査資料の作成 ○ITCを活用したスマート農業の実践 ○6次産業化の基礎学習 ○進路希望別カリキュラムの実施	トマトで公開審査(11/1) トマトで認証取得(11/19) ○農場Wi-Fi整備(5月) タブレット活用講義「SNSと農業」(7回)、 「スマート農業」講義 ドローンの活用事例及び操作等(16回) ○6次産業化科目の新設(16回) ○就農、雇用就農、就職コース(12月～16回)	A	・畜産学生の県内酪農家青年部との交流は今後も継続していただきたい。その他の分野においても、積極的な交流会等を望む。 ・GAPは素晴らしい取り組みでこれからの時代、当たり前になると思う。 ・新たな取り組みに期待したい。今後は、経営に関するスキルアップにつながるカリキュラムも必要。ドローンの活用、スマート農業、G・GAPの認証など。生業とする農業を目指さなければならない。 ・G・GAPの認証に向けた取り組みは農業系の高校との連携の糸口になりそう。 ・広く浅くなっている授業がある。6次の授業は好評。資格を取るための授業は、受験しない学生にとっては意味がない。G・GAPはトマト以外の品目も行動に移す必要がある。日頃できることからやり、花きコースもNPSに取り組みたい。農家視察を増やしてほしい。	B	・学生主体によるG・GAPの更新審査、コンサルによる更新指導(トマト)全学生のGAP実践教育 農作業対応マニュアルの整備 ・畜産学生による酪農へのインターンシップ研修(2年次) ・聴講制度の拡充

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
(3) 基礎学力の向上)	基礎学力に学生間差がある	○基礎学力の向上(学校全体のレベル向上)	○基礎学力の向上(農業計算、文章力)	○農業計算の補習(レベル別・2コース) ○文書、レポートの作成 ○計算力の向上(2年) 0.8点、1%アップ ○入校までに課題提出	A	・計算力の向上は不可欠。高校としても頭の痛いところ ・成果の内容はわからないが、農業簿記や労務管理の計算力の向上も期待する。 ・国語の授業を導入してほしい。提出レポートの指定枚数が多すぎて逆効果。	B	・実習時における農業計算指導
(4) 学生の生活指導の充実	○規則違反、マナー違反が散見される。 ○社会人としての意識向上。 ○コミュニケーション能力の向上	○自主的活動の実践 ○社会人としての意識向上	○メンタル面のカウンセリング実施 ○ルール遵守のための学生指導強化 ○接遇の講義導入	○人権・メンタル面の指導方法の研修実施(職員対象) ○連絡事項を毎週掲示版に提示 ○接遇の講義、社会人マナー研修の実施(進路別) トイレ掃除に学ぶ研修の実施 ○レストパークの接遇研修	B	・今後も社会人マナー研修等継続して欲しい。 ・社会人マナーは大切なことで、今以上の向上を期待する。 ・マナーは、高校としても、生徒から指摘を受ける場面があり、自ら範を示す努力も求められる。 ・カウンセリングを実施して欲しい。寮生活や進路で悩んでいる。 ・トイレの掃除の研修は良かった。現在の週1回の掃除を2回にしたい。 ・農業分野以外でもアルバイトできるようにしてほしい。人としての常識を身に付けることができる。 ・学生への連絡を早くし、連絡会を復活してほしい。	B	・当番時の舎監業務の拡充 ・農作業実習の事故防止施設・設備のトラブル防止G-GAPを寮生活へ波及(自治会機能の充実) ・カウンセリングの実施 ・連絡会の復活

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
2 専門性の向上 (1) オランダとの交流	○レンティス校との交流目的の明確化	○オランダとの交流実施	○オランダ学生を受け入れ ○オランダ訪問団への参加	○レンティス校から受入れ6名(6/22～7/2)2名引率 オランダ環境制御技術会社と中継講義、オランダ学生とマーケティング調査 オランダ学生とのスマホ交信 ○オランダへ派遣(7/29～8/5)学生1年4名、2年1名	A	・学生にとっては非常に魅力ある活動。今後も継続していただきたい。 ・これからの時代英会話は必須、わずか2年の間では厳しいだろうが、リスニングだけでも向上を期待する。 ・オランダの学生との交流での意識変化と、今後の新たな取り組みを知りたい。 ・交流によって学生が何を学び、今後に何が生かせるようになったのか、興味がある。 ・オランダ交流もあり、英語の授業を充実してほしい	B	・TOEICの導入 ・オランダの学生(4～5月来校予定) ・オランダ訪問団への参加
(2) プロジェクト活動の強化	○課題解決のための計画、実行、分析能力の向上	○卒論審査全員合格 ○次世代ハウスを活用したプロジェクトの実施2課題以上	○地域課題に対応したプロジェクト課題 ○次世代型ハウスを活用したプロジェクト実習	○卒論 23名全員合格 ○全国大会(意見発表会の一部)1年1名が特別賞受賞 ○卒論の課題設定理由、調査項目等のチェック ○実習後の実習日誌の指導 ○次世代型ハウスでの環境制御技術実習(2課題)	A	・自分が決めた課題をクリア出来た事は良い。 ・今後の全国大会への参加者増に期待したい。 ・農家研修も更に充実を期待している。 ・希望する栽培品目が栽培できていないと、モチベーションの低下につながる。	B	・試験場や地域、企業と連携した課題の取組強化 ・各専攻で環境制御技術実習を導入

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
(3) 法人の求める能力の育成)	○農業法人からは即戦力を求められている。 ○農業法人との連携 ○求人情報の収集。	○法人就農者の確保	○雇用就農に対応した講義の実施 ○インターンシップの強化	○生産法人への雇用就農者 5 名 (内、次世代型 2 名) ・法人との意見交換会、現地視察 (12 社) ・雇用管理の講義 (社労士) ・農業技術検定の取得 3 級以上 81 % ○インターンシップ研修 (5 月、9 月 13 法人) 休日アルバイト利用 9 名、先進農家等留学研修 23 名 ○公開経営特別講義の実施 「製造業のノウハウを活かした儲かる経営構造」	A	・農業生産法人のみならず、社会としての役割を分かることが良いと思います。インターンシップ研修は非常に良いと思う。 ・非農家の学生増に伴う、雇用就農への支援体制の強化。 ・生産法人だけでなく農業の関連法人のインターンシップも視野が広がると思う。 ・インターンシップ研修を多くし、内容の充実をしてほしい。農家との交流を増やしてどんな人材が求められるかを知る必要がある。	B	・農業生産法人へのインターンシップの実施 ・農業技術検定 3 級以上取得者率の向上
(4) 各種資格・免許取得	○資格免許の合格率の向上 ○補習の充実	○合格者及び免許取得者の確保 目標数値 【合格者】 乙種 4 類 5 人 農業技術検定 3 級 20 名 エクセル 3 級 17 名	○資格取得のための支援 【(資格・免許等)】 危険物乙種 4 類取扱者 毒物劇物取扱者 日本農業技術検定 フラワー装飾 エクセル 3 級 土壤医 3 級 フォークリフト 小型車両系建設器機 狩猟わな免許	○合格者 乙種 4 類取扱者 5/16 名 毒物劇物取扱者 0/7 名 農業技術検定 2 級 2/36 名 農業技術検定 3 級 14/24 名 フラワー装飾 2 級 4/6 名 フラワー装飾 3 級 3/4 名 エクセル 3 級 24/35 名 土壤医 3 級 1/14 名 フォークリフト 31/31 名 小型車両系建設 29/29 名 狩猟わな免許 3/3 名 人工授精師 2/2 名	B	・試験前の研修等充分であったのか？今後も合格率の向上のための対策が必要。 ・目標の明確化の視点では、農業高校から入学の生徒と、その他の高校からの入学生徒とのチャレンジ資格の差別化が必要ではないか。このことは、農業大学校との連携にも関係してくると思う。 ・農業技術検定 3 級は全員合格を目指していただきたい。大特、けん引、大型免許も必要と思う。	B	・目標の明確化 (資格数など) ・危険物乙種、毒物劇物取扱者資格、農業技術検定 3 級以上合格率向上対策 (再掲)

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
3 進路支援 活動の強化 (1) 就職活動 の支援体制の強化	○卒業後直ちに就農できる学生は少ない。 ○就職活動の意欲が低い学生が散見される。 ○雇用就農できる生産法人の開拓	○進路内定率 100%	○進路別カリキュラム（就農、雇用就農、就職）の導入 ○6次産業化科目の新設 ○三者面談を通じた早期の目標の明確化 ○求人情報の把握と紹介 ○海外農業研修の情報提供 ○就職ガイダンスの実施 ○四年生大学編入ゼミ	○進路内定率 96% 22名/23名 ○就職・雇用就農コース キャリアコンサルタントによる就職指導 ○求人情報 県内企業 25社 県内求人数 263人 県外企業 27社 県外求人数 173人 ○進路先 就農 6名 雇用就農 5名 就職 11名 未定 1名 ○2名が四年生大学を受験	B	・就職意識の少ない学生もいると思う。海外研修など世界を見ることも大事。 ・非農家の学生増に伴う、雇用就農への支援体制の強化。 ・四年制大学への編入は成果を期待している。 ・海外農業研修は進路の一つとしてぜひ提案してほしい。	B	・農業高校実習助手試験への支援 ・高知大への四大編入の制度化に向けた取組
(2) 就農支援	○将来の就農ビジョンが明確でない。 ○農業の厳しさを十分認識せず、投資事業に申請する学生がいる	○就農率 60%	○就農に向けた栽培・経営計画、目標の明確化 ○就農に必要な知識・技術の習得 ○農業次世代人材投資事業（準備型）の適正な活用支援 ○地域担い手協議会と連携	○就農率 合計11名 47.8% (29年度 59%) 親元就農 6名 雇用就農 5名 就職 11名 ○（就農コース） 13人 経営計画の策定、農業機械、ハウス張替、土づくり ○J A高知市青壮年部との意見交換会	B	・厳しい現実の中夢を描ける人材が増えることを希望する。特に、やりがいのある農業、誇りを持てる農業者を育ててほしい。親元でなく雇用就農で力をつけて事業拡大に繋げてほしい。	B	・機械実習圃場の整備 ・経営基盤のない新規就農への支援対策

評価項目	課題	目標	具体的方策	自己評価 (内部評価)		外部評価		今後の取り組み
					評価		評価	
				○就農後のフォローアップ ○投資事業 1年2名、2年1名 香美市担い手協との連携(2年) ○調査(25～29年度) 就農：定着率100% 雇用就農：85%		・就農者の拡大については、是非頑張って欲しい。ただ、課題にもあるように、農業の厳しさを十分認識していないという点においては、高校でも生徒の人件費の問題について、学習を深めることと関連があるように思う。 ・将来の就農ビジョンを明確化させる為にも県内の担い手や特色のある農業を実践している農業者との交流は大事だと思う。 ・農家でなくても農業をしたいと思っている学生はいる、数字だけで語るものではない。		
4 教職員の スキルアップ (1) 研修の強化	○生産現場の課題をいち早く授業に取り上げて円滑な就農に結び付けることが必要。 ○若者の心理を踏まえた教育指導技術の向上が必要。	○各種研修への参加	○研修受講 普及指導員研修 指導力発展現地研修(農水) 高校教諭との意見交換	○参加状況 教育研修会 1名 西日本担当者会(花き、畜産) 2名 中国四国教務担当者会 1名 J-GAP指導員研修会 1名 トマト自主企画研修会 1名 ピーマン品目別研修会 1名 授業研究、プランニング手法 10名 高校教諭との意見交換 9名	B	・農業分野にこだわらず他の分野の研修も必要。 ・経営に関するスキルアップ研修へも参加すべきでは。 ・他県・全国の取り組みや課題を知る為にも全国農業者育成研究会にはぜひ参加を。	B	・積極的な研修受講